

ベビーゲート等の使用に関する安全確保

概要説明資料

＜協議会での検討対象＞

生後 24 か月以内の乳幼児が室内、廊下、階段等へ移動することを防止するため、一般家庭の家屋に取り付けて使用するベビーゲート、ベビーフェンスといった製品(以下「ベビーゲート等」)を対象とする。

1 事件事例等 (資料 1)

＜東京都が把握した事件事例＞

過去 5 年間にベビーゲート等が関連する救急搬送・受診に至った 5 歳以下の事例

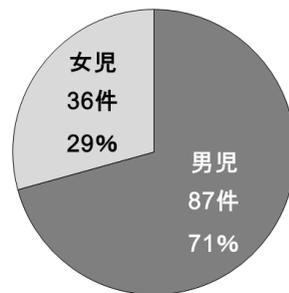
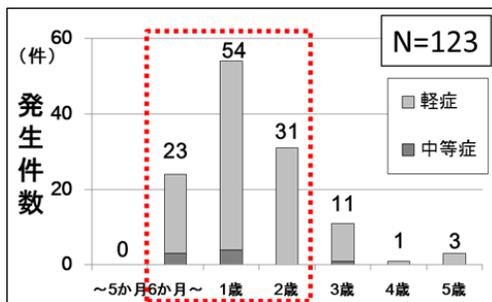
- ・ 東京消防庁救急搬送事例 44(2)件
- ・ 医療機関ネットワーク受診事例 79(5)件 計 123 件

注 () は中等症の件数

＜事故の発生状況＞

[年齢別発生件数]

6 か月～2 歳での事故が多く、最も多いのは 1 歳であった。
また、男児は女児の 2 倍以上の件数であった。



[事件事例]

- ・ 親が家事をしていた際に子供に呼ばれる声があったため振り返ると、右大腿部(膝上)が鉄製の柵の間(幅約 8 cm程度)に挟まり取れない。(1 歳、軽症)
- ・ 階段の 2 階の柵の鍵をかけ忘れてしまい、子供が遊んでいたところ、1 階まで(14 段)転落した。頬や頭部の打撲、首に内出血があり、2 日間入院。(1 歳 11 か月、男児、中等症)

[事故発生原因]

「ベビーゲート等が直接関連した事故」は 44 件、「ベビーゲート等を通じた先で発生した事故」は 79 件あった。

最も多かった原因は「閉め忘れ」で 58 件であった。

	東京消防庁	医療機関 NW	計
ベビーゲート等が直接関連した事故	25(1)	19(0)	44(1)
ベビーゲート等が外れた	9(1)	5(0)	14(1)
ベビーゲート等にぶつけた	6(0)	10(0)	16(0)
ベビーゲート等に挟んだ	8(0)	3(0)	11(0)
ベビーゲート等につまづいた	1(0)	0(0)	1(0)
不明・その他	1(0)	1(0)	2(0)
ベビーゲート等を通じた先で発生した事故	19(1)	60(5)	79(6)
閉め忘れ	8(0)	50(5)	58(5)
ロック解除	1(0)	8(0)	9(0)
ベビーゲート等を乗り越えた	10(1)	2(0)	12(1)
総数	44(2)	79(5)	123(7)

注 () は中等症の件数

[設置場所]

階段、特に階段上の設置が最も多く、83 件(67%)であった。
他には、台所、居室、廊下(玄関近く)、ベランダ等に設置されていた。

＜設置で防げた可能性のある事故＞

ベビーゲートの設置により、事故を防げた可能性のある事例が多数あった。

階段からの転落、台所でのやけどや誤飲など

ベビーゲートがないと思われる住居内の階段からの 0～1 歳児の転落事故

東京消防庁救急搬送事例 約 800 件/過去 5 年間

＜ヒヤリ・ハット調査「乳幼児を育てるために使う製品による危険」の分析＞

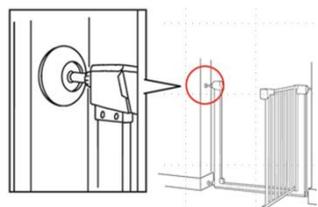
- ・ 都が 2015 年度に報告した、0～6 歳の子供をもつ男女 3,000 人へのアンケート調査
- ・ ケガやヒヤリ・ハットの経験は、乳幼児の安全を確保するための製品の中で、ベビーゲートが一番多かった。(ケガ 13 件、ヒヤリ・ハット 53 件)

2 商品の種類と安全対策 (資料2)

<ベビーゲート等の種類>

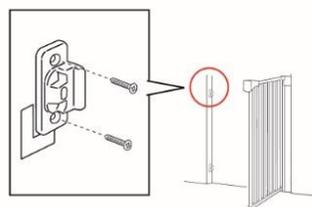
[固定 (取付) 方法]

・ つっぱり式、ねじどめ式、据え置き式の3種類



<つっぱり式>

・ ボルトなどを伸長し、壁に突っ張って固定



<ねじどめ式>

・ 柱などにねじで固定



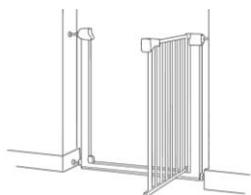
<据え置き式>

・ 固定しない

対象外

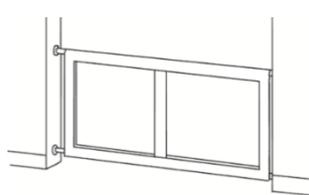
[開閉できる構造の有無]

・ ベビーゲート、ベビーフェンスの2種類



<ベビーゲート>

・ 開閉部を有し、通れるもの

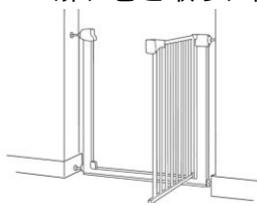


<ベビーフェンス>

・ 開閉部を持たず、またいで通るもの

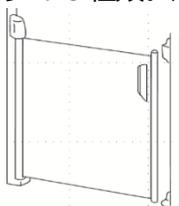
[開閉できる構造の形状]

・ 扉、巻き取り、伸縮タイプの3種類。扉タイプの製品が最も多い。



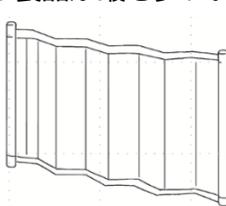
<扉タイプ>

・ 前後に開く扉あり



<巻き取りタイプ>

・ 布などを巻き取って開閉



<伸縮タイプ>

・ 伸縮して開閉
・ 扉がじゃばらや格子状

[事故防止のための安全対策]

○製品の安全対策機能

<多重ロック機構>

・ ベビーゲートを開ける際に、複数の動きを組み合わせた操作を要する、乳幼児によって、容易に操作できない構造

<オートクローズ機能>

・ 扉タイプのベビーゲートが開いたままにならないよう、自動で扉が閉まる機能

<つまずき防止スロープ>

・ 通る際につまずき防止のため、つっぱり式の扉等の下部フレームに付けるカバー

○製品の表示 (包装・本体・取扱説明書)

・ 設置 (設置場所、設置方法)

・ 使用方法 (要実施の行為、禁止行為)

要実施の行為…設置状況の定期的な確認、開閉部の確実なロック等

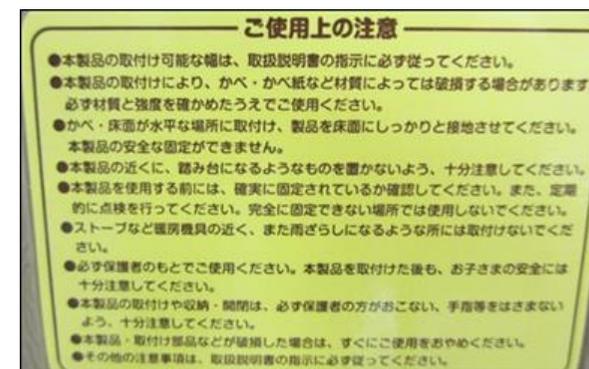
禁止行為 …破損状態で使用しない、子供が扉を開けられたら使用しない等
…製品に乗る (登る)、寄りかかる、ぶら下がる等の行為の禁止

<設置 (設置場所 - 設置禁止) >

株式会社日本育児
スマートゲートIIプラス 取扱説明書

<使用方法 (要実施行為・禁止行為) >

株式会社日本育児
スマートゲートIIプラス 本体ラベル



3 法令、規格・基準、取組（資料3）

<法令・規格・基準>

○法令・規格・ガイドライン等は存在しない。

- ・ NITE は、乳幼児共通規格（乳幼児に対する安全配慮を目的とした製品の共通規格）の策定に取り組んでおり、JIS 規格の原案作成中

<概要>

隙間等への身体の挟み込みや製品の鋭利な部分への接触を防ぐための規格、構造の安全性（部品外れや製品破損）、チャイルドレジスタンス機能

○SG 基準

- ・ 製品安全協会が制定した、各種製品に関する安全基準
- ・ 適用範囲：生後 24 か月以内の乳幼児が室内、廊下、階段等へ移動することを防止する目的で、一般家庭の家屋に取り付けて使用する柵
(対象外：据え置き式のベビーゲート等やベビーサークル)

ロック機構	<ul style="list-style-type: none"> ・ 手動解除に 50N 以上の力が必要 ・ 2 操作以上の連続した関連操作 ・ 2 以上の独立した機構の同時操作 	1 つ以上を満たすこと
寸法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 5 mm 以上 13 mm 未満の隙間がない(深さ 10 mm 未満は除く) 	指等の挟まり防止
	<ul style="list-style-type: none"> ・ さん木等の間隔及びさくと柱等の間隔は、85mm 未満 ・ 560mm の高低差の範囲に、足をかけて登ることができる構造物がない 	隙間からのすり抜け防止 乗り越え防止
耐衝撃性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 柱等に取付け、10kg の衝撃を規定箇所に一定回数加えた後、目視及びスケールにより、ずれを確認 	
耐久性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 柱等に取付け、柵の面に対して垂直に 50N の力を規定箇所に一定回数加えた後、目視により破損、変形等を確認 	
外観及び構造	<ul style="list-style-type: none"> ・ 階段上に設置可能： 木ねじ等で柱等に固定できる部材（固定用カップ）がある ・ 扉で開閉する構造：階段側に扉が開かない機構がある 	構造に応じた条件を満たすこと

<行政機関等、NPO の取組>

○注意喚起等の内容

- ・ 事故防止対策としてベビーゲート等の設置を推奨するものが多い
- ・ ベビーゲート等の安全性に関する注意喚起はほとんどなく、ベビーゲート等に関する事故事例が載る程度

【消費者庁】

- ・ 階段からの転落や台所での事故の予防策として、ベビーゲート等の設置を推奨
2017 年 12 月「炊飯器や電気ケトル等による、乳幼児のやけど事故に御注意ください」
2019 年 3 月改訂「子どもの事故防止ハンドブック」
- ・ 消費者庁のリコール情報サイトにて、ベビーゲート等のリコール対象商品の情報を掲載

【国民生活センター】

- ・ 転落事故の予防策として、階段への転落防止の柵の設置の推奨
2013 年 3 月「医療機関ネットワーク事業からみた家庭内事故」
2016 年 1 月「発達をみながら注意したい 0・1・2 歳児の事故」

【東京都】

- ・ ベビーゲートに関する事故事例の掲載
2015 年 10 月「乳幼児の身の回りの製品事故防止ガイド※」
※ アンケート調査「乳幼児を育てるために使う製品による危険」の結果を元に作成。

【NPO 法人 Safe Kids Japan】

- ・ HP 上に子供の様々な事故事例と安全対策を提示
- ・ 階段のベビーゲートを閉め忘れ、幼児が転落した事故に対し、階段の上下にベビーゲートを設置し、必ずロックするよう推奨

4 海外情報（資料4）

○海外における事故情報、規格・基準、事故防止への取組

- ・米国、英国、フランス、シンガポール、韓国、豪州、中国の7か国を対象

<事故情報>

- ・具体的な事故情報が確認できたのは、米国のみ
ベビーゲートの閉め忘れによる階段からの転落など
- ・シンガポールは9件、中国は1件の事故情報があるが、詳細は不明
- ・英国では、階段転落事故の調査論文で、事故の集計結果を報告

<規格・基準>

- ・ベビーゲートに関する規格・基準は、米国と欧州(英国・フランスを含む)のみ
米国：ASTM F1004（任意規格）、欧州：EN1930:2011（強制規格）
シンガポールでは国内販売製品はASTMかENの取得義務あり

<国、関連団体等の事故防止への取組>

- ・商品の安全性や設置時の注意など
国や自治体…欧州や豪州、消費者団体…米国、英国
- ・行政機関などによるベビーゲートの使用の推奨
米国、英国、フランス、シンガポール、豪州
- ・いずれの国でも、一般家庭でのベビーゲートの設置義務はない

考えられる課題

○ベビーゲート等が直接関係する事故の原因として、柵が外れた、ぶつけた、挟んだ、などがある。

- ・製品の耐衝撃性や、寸法・構造などの確認
- ・乳幼児がゆさぶったりぶつかった時の力の把握
- ・設置状況や事故の詳細についての実態把握

○ベビーゲートの閉め忘れによる事故が多い

- ・ロック機構やオートクローズ機能の確認

○ベビーゲート等がないと思われる階段での事故が多い

- ・ベビーゲート等の普及率や自宅内の階段の有無の把握

5 アンケート調査案（資料5）

- 対象：東京都[※]に居住、在勤又は在学し、子供（0～5歳）を養育するベビーゲート等を使用する20歳以上の男女1,000人
（※対象人数の確保状況により、一都三県に拡大する可能性あり）

- 方法：インターネットアンケート調査

○調査項目

- ・ベビーゲート等の使用実態
- ・ベビーゲート等を使用するときの安全確保
- ・ベビーゲート等使用中の危害、ヒヤリ・ハット経験の事例

6 検証実験案（資料6）

<実験内容>

(1)ベビーゲート等の安全性の検証

製品安全協会が制定したSG基準に基づく試験等を行う。

- ア 寸法の確認
- イ ロック機構の確認
- ウ オートクローズ機能の確認
- エ 耐衝撃試験

(2)乳幼児の押引力等の測定

- ア ベビーゲート等を押し引きする力を測定する。
- イ ベビーゲート等にぶつかった時の衝撃力を測定する